

〔会員からの寄稿〕

研究会監事になって

高瀬久男

(独立行政法人家畜改良センター茨城牧場)

All about SWINE 67, 27

このたび、日本 SPF 豚研究会のお手伝いをさせていただことになりました独立行政法人家畜改良センター茨城牧場の高瀬です。よろしくお願ひいたします。

私は、平成 8 年に農林水産省畜産局に採用され、農林水産省、家畜改良センター、県等で主に畜産振興や家畜改良、技術開発等に従事してきました。そして、平成 28 年に同センター宮崎牧場で初めて衛生担当となったことを機会に本研究会に入会しました。

それまで「SPF 豚」という言葉を聞いたことはあったものの具体的な知識はなく、赴任当初は、農場での検査成績の見方や家畜保健衛生所や専門家の先生方の説明を理解するのに苦労するような状態でした。業務の傍ら本誌や本研究会ホームページ、日本 SPF 豚協会の書籍等により知識や情報を得たことは、検査成績や先生方の説明を理解し農場の状況等を把握する上で、大きな助けとなりました。この場を借りてお礼申し上げます。

この 4 月から同センター茨城牧場勤務となり、本研究会監事への就任依頼をいただいたことを機に、改めて本誌のバックナンバーや本研究会ホームページを読み返してみました。そこには、皆様ご承知のとおり、我が国の SPF 豚草創期から 50 年以上にわたる SPF 豚の生産や調査、研究と技

術の普及の取り組みが記録されています。特に、本誌 1 号及び 2 号に掲載された「日本 SPF 豚物語」は当時の SPF 豚誕生の経緯を知る上で大変貴重な記録と感じました。以来、本誌が今回第 67 号の発行を迎える、これまでの会員の皆様はじめ関係各位のご尽力に深く敬意を表する次第です。また、本誌の編集や本研究会ホームページを管理されている事務局の方々にも改めて感謝申し上げます。

最後に、このような歴史ある本研究会のお手伝いをさせていただくにあたり、甚だ微力ではございますが、少しでもお役に立てればと存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。

参考文献

- 1) 日本 SPF 豚協会編. 2010. ハイヘルス養豚への挑戦
- 2) 日本 SPF 豚協会編. 2019. 日本 SPF 豚協会 50 年史
- 3) 波岡茂郎. 1992. 日本 SPF 豚物語－SPF 豚 第 1 号の誕生－. All about SWINE 1 2-7.
- 4) 波岡茂郎. 1992. 日本 SPF 豚物語－畜産目的に回って「官」との攻防－. All about SWINE 2 2-15.

[会員からの寄稿]

研究会監事になって

苅 部 一 司

(伊藤忠飼料株式会社 研究所 予防衛生チーム)

All about SWINE 67, 28

このたび研究会の監事となりました、伊藤忠飼料株式会社 研究所の苅部と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。せっかくなので、自己紹介がてら自身の養豚との縁について書かせていただこうと思います。

私の養豚との出会いは幼少期で、実家（栃木県真岡市）が兼業農家をしており、米、にら、たまねぎ、かんぴょうなどを作る傍ら、いわゆる庭先養豚も営んでいました。数十頭の豚を残飯と少々の配合飼料（残念ながら当社飼料ではありませんでしたが・・・）とで肥育しており、エサやりの手伝いをしていました。父は地元の小さな肥料・飼料の代理店に勤めており、配達ついでに昼食を食べにバルク車で帰ってきていたのが思い出されます。学生時代は別の業界を志したものの、結果的にこの業界に身を置いているのはやはり縁があったのだと思います。

その後、就職活動を行う中で縁あって当社に入社することになり、最初の配属先として岩手県を拠点に飼料営業をすることになりました。そこで出会ったのが、とある SPF 認定農場の社長（現会長）でした。営業でありながら逆に色々と教わ

ることばかりだったのですが、その中でも特に思い出されるのが代用乳への虫混入事案です。製品を見ても虫の存在がわからず、20kg 分の代用乳をお湯に溶かしザルで濾してようやく数匹のコクヌストモドキの死骸が見つかる程度ではあったのですが、激怒され取引停止寸前の事態となりました。その際に社長が仰っていたのが、「お前は自分の子供に虫入りのミルクを飲ませるのか！」ということでした。ここまで愛情と執念をもって管理されておられるということに驚き、衝撃を受けたのが鮮明に思い出されます（ありがたいことに現在でもお取引を頂いております）。そこから畜種の中でも特に養豚に興味を持ち、深く関わっていくようになりました。

現在は SPF、コンベ含め全国の農場を訪問させて頂くようになりましたが、実際のところはここまで意識で管理にあたっている農場は少ないかもしれません。しかし SPF 養豚のはじまりを考えればかくあるべしと思います。せっかく頂いた縁なので、豚への愛情そして SPF イズムを繋いでいけるよう、微力ながら貢献していきたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。